

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5640m付近で-15℃以下の寒気を伴うトラフに対応する低気圧が、前線を伴って日本の南を東進。低気圧の影響で、東～西日本太平洋側ではやや強い風や強い風を観測し、海上では波が高くしけの所がある。また、日本の南では、低気圧や前線の影響で、活発に発雷。
- ② 高気圧が、日本の東を東北東へ移動。
- ③ 高気圧が、東シナ海をゆっくり東へ移動。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、26日は八丈島の南を通って日本の東に進み、27日は500hPa 5520m付近のトラフに対応して日本の東を東北東へ進む。低気圧の影響で非常に強い風や強い風が吹き、波が高くなり大しけとなる所がある。低気圧が本州付近から離れた後も、うねりの影響で波の高い状態が続く所がある。伊豆諸島では26日は、高波に警戒。南西諸島では26日は、北～西日本では27日にかけて高波に注意し、東～西日本では26日は強風に注意。また、低気圧や前線に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で大気の状態が不安定となるため、雷を伴って激しい雨が降り、大雨となる所がある。伊豆諸島では26日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ② 26日は、500hPa 5760m付近の強風軸に対応する前線が、華南付近で顕在化して東シナ海にのび、28日にかけてほとんど停滞する。前線に向かう下層暖湿気の影響で、対流雲が発達し強い雨の降る所がある。南西諸島では、対流雲の発達による降水の強まりや発雷に留意。
- ③ 1項②の高気圧は26日は次第に不明瞭となるが、千島近海付近で顕在化する高気圧と2項①の低気圧との間では、相対的に冷たい湿った東よりの風が吹き、東北太平洋側を中心に流れ込む。また、26日夜までに、500hPa 5520m付近のトラフの接近に伴って相対的に暖かい秋田沖付近に低気圧が発生。この低気圧は秋田沖をゆっくり北上し、27日夜までに不明瞭となる。
- ④ 1項③の高気圧は、28日にかけてほとんど停滞する。また、27日は、別の高気圧が日本海で顕在化して、28日にかけて日本の東に移動する。これらと2項③の高気圧に覆われて晴れて気温の上がる所がある。さらに、2項①③の低気圧の影響による降水の影響も加わり、雪解けが進む所もある。東日本では27日にかけて融雪に注意し、北～西日本の多雪地では28日にかけてなだれに注意。
- ⑤ 28日にかけて、複数の上層トラフが本州付近を通過する。2項④の昇温の影響も加わり、本州付近では大気の状態が不安定となり対流雲が発達する可能性がある。局地的な発雷に留意。

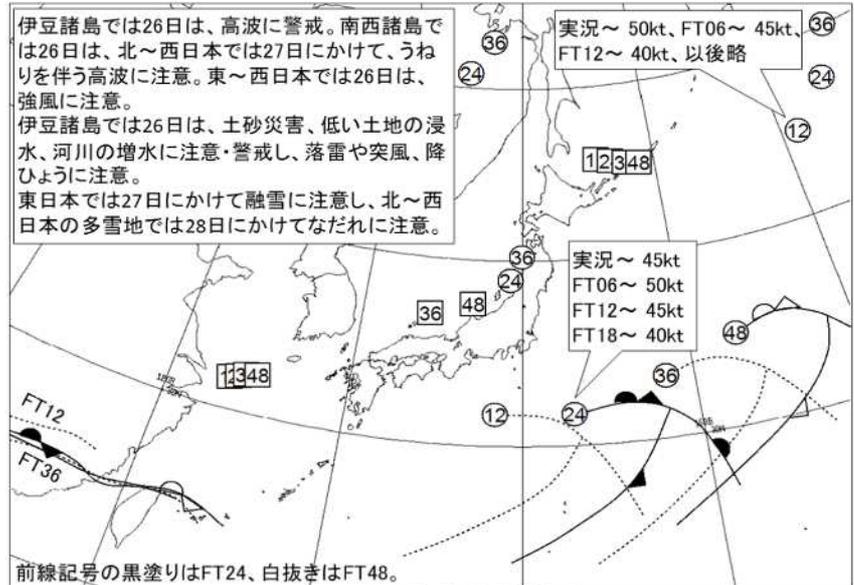
3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：伊豆諸島6、近畿5、関東・東海・四国4、東北・九州南部・奄美・沖縄3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図